

公衆トイレに命名権

和光市

和光市が、契約した企業に公衆トイレの命名権(ネーミングライツ)を与える見返りに、企業がトイレの改装費を負担して管理などを担当する新たな仕組みを始めた。市は予算を使わずに公衆トイレを清潔に保つことができ、松本武洋市長は「汚くて入りづらかった公衆トイレがびかびかの状態で維持できるのは喜ばしい。市の活性化にもつなげたい」と期待している。



「和光市駅前」トイレ診断士の開所セレモニー(8日、和光市で)トイレの前で行われた開所セレモニー(8日、和光市で)

企業が改装費負担や管理

市が命名権を与えたのは、トイレ総合メンテナンス会社「CSリレーションズ」(本社・越谷市)。市は2017年3月末まで、東武東上線と和光市駅の南口広場にある公衆トイレの命名権を同社に与え、同社は「和光市駅前 トイレ診断士の開所」と命名した。

市は1998年3月、同駅の南広場の整備に合わせ、このトイレを設置した。メンテナンスはシルバー人材センターや業者に委託してきた。

人通りが多いため利用者が多いが、市の財政難などから清掃が行き届かないこともあり、市民から清潔なトイレを求める要望が出されていた。

市はインターネットなど

で命名権を得る代わりに設備を改装し、清掃作業の一部を行う会社があることを知った。

昨年5月にホームページで企業を募集したところ、2社から応募があり、横浜市や京都市、東京都渋谷区などで同様の命名権を得ている同社を選んだ。

同社は洋式トイレの設置のほか、照明を発光ダイオード(LED)にしたり、ベビーベッドを設置したりするなど約500万円を負担。毎日の清掃作業はシルバー人材センターが担当するが、汚れのひどい部分の作業は、同社の社員が月に2回行う。

同社の増田恭章社長はトイレの前で行われた開所セレモニーで「臭い、怖い、暗い、汚いという公衆トイレの印象を変える私たちの技術を見てもらうためのシヨールームとして、多くの人に利用してもらいたい」と述べた。